

中国の章回小説の章段タイトルの構造について

文 楚雄

I 始めに

中国の明、清時代に盛えていた章回小説¹⁾は非常に数多くの優秀作品を残している。今でも人人に愛読されている「三国演義」、「水滸伝」、「西遊記」、「紅樓夢」などはその代表的な作品である。章回小説は長編小説の一種であるが、独特な特徴を持っている。そのもっとも大きな特徴としては小説を数十回、百数十回の章段に分け、それぞれの章段に二句の章段タイトルをつけることがあげられると思う。この二句の章段タイトルはその章段の主な内容やヒントを読者に与える。またこの章段タイトルの構造も章回小説の独特な特徴があると思われる。例えば、章段タイトルが七言、八言句から構成されているものは多いのがその一つである。「三国演義」²⁾では120章段のうち、七言句で構成する章段タイトルは89章段で、およそ全体の74.2%を占めており、八言句は31章段で、およそ25.8%を占めている。七言八言句以外の章段は一つもない。「水滸伝」³⁾では120章段のうち、七言句は55章段、八言句は59章段であり、この七言八言句の章段は全体の95%を占めている。「西遊記」⁴⁾では100章段のうち、七言句は80章段、八言句は11章段で、七言八言句の章段は全体の91%を占めている。「紅樓夢」⁵⁾では120章段はすべて八言句である。「金瓶梅」⁶⁾では100章段のうち、七言句は56章段、八言句は42章段、あわせて98章段で、98%を占めている。また「民国章回小説大観」⁷⁾では156篇の作品を取録しているが、そのなかでも章段タイトルが主に七言八言句だった作品は97篇あり、およそ72%を占めている。このように章回小説の章段タイトルは文字数だけを見ても独特な特徴があるのである。

本稿ではこのような独特な特徴のある章回小説の章段タイトルの構造について考察し、その構造のパターンや特徴を明らかにすることを試みたい。なお、本稿では主として七言八言句の章段タイトルを考察することにしている。

Ⅱ 章段タイトルの主語

章回小説の章段タイトルは主語₈₎がよく現れる。主語の省略は作品によっては違うが、比較的少ないのである。例えば、「三国演義」では120章段のうち、章段タイトルの主語が二句とも省略されているのはわずか3章段だけで、25%しか占めていない。「水滸伝」では120章段のうち、章段タイトルの二句とも主語が省略されているのは一章段しかない。「紅樓夢」では120章段のうち、章段タイトルの二句とも主語が省略されているのは14章段で、およそ12%しか占めていない。

2-1 主語の文字数

章回小説章段タイトルの主語は一文字の場合もあれば、四文字の場合もある。

A、四文字の場合

主語が四文字の場合の用例は比較的少ない。次の用例を見てみよう。

1. 黑河妖孽擒僧去 西洋龙子捉鼯回 (《西》第四十三回⁹⁾)
2. 解珍解宝双越狱 孙立孙新大劫牢 (《水》第四十九回)
3. 托塔天王梦中显圣 浪里百跳水上报冤 (《水》第六十五回)
4. 琉璃世界白雪红梅 脂粉香娃割腥啖膾 (《紅》第四十九回)

棒線で示しているように、主語が四文字から構成されている。

B、三文字の場合

主語が三文字から構成される用例がとても多い。次の用例を見てみよう。

5. 韩道国拐财远遁 汤来保欺主备恩 (《金》第八十一回)
6. 秦叔宝归家待母 齐国远载路迎朋 (《隋唐演義》第十五回¹⁰⁾)
7. 梦周公王世充绝魏 弃徐勣李云遼归唐 (《隋唐》第五十三回)
8. 平原县秦叔宝逃生 大海寺唐万仞徇义 (《隋唐》第四十五回)
9. 宋公明夜渡益津关 吴学究智取文安县 (《水》第八十五回)
10. 偷骨殖何九叔送丧 供人头武二郎设祭 (《水》第二十六回)
11. 王杏庵义恤贫儿 金道士耍淫少弟 (《金》第九十三回)
12. 孙行者大闹黑风山 观世音收伏熊罴怪 (《西》第十七回)
13. 秦可卿死封龙禁尉 王熙凤协理宁国府 (《紅》第十三回)
14. 秦文公郊天应梦 郑庄见掘地见母 (《东周列国志》¹¹⁾ 第四回)
15. 萧刺史重道敬僧 老祖师观颜知喜 (《东度记》¹²⁾ 第九十八回)

棒線で示しているように、主語は三文字から構成されている。

C、二文字の場合

主語が二文字で構成する用例は非常に多い。次の用例を見てみよう。

16. 横海郡柴进留宾 景阳冈武松打虎 (《水》第二十三回)
17. 孔明用智激周瑜 孙权决计破曹操 (《国》第四十四回)
18. 马超大战葭萌关 刘备自领益州牧 (《国》第六十五回)
19. 袁曹各起马步三军 关张共擒王刘二将 (《国》第二十二回)
20. 用奇谋孔明借箭 献密计黄盖受刑 (《国》第四十六回)
21. 宴长江曹操赋诗 锁战船北军用武 (《国》第四十八回)
22. 唐主选僧修大会 观音显像化金蝉 (《西》第十二回)
23. 黄风岭唐僧有难 半山中八戒争先 (《西》第二十回)
24. 玉萧跪受三章约 书童私挂一帆风 (《金》第六十四回)
25. 评女传巧姐慕贤良 玩母珠贾政参聚散 (《红》第九十二回)
26. 宴海棠贾母赏花妖 失宝玉通灵知奇祸

棒線で示しているように、主語は二文字から構成されている。

D、一文字の場合

27. 魔弄寒风飘大雪 僧思拜佛履层冰 (《西》第四十八回)
28. 观音院僧谋宝贝 黑风山怪窃袈裟 (《西》第十六回)
29. 睦州城箭射邓元觉 乌龙岭神助宋公明 (《水》第一百十七回)
30. 赦反侧君念臣恩 了前缘人同花谢 (《隋》第九十九回)

棒線で示しているように、主語は一文字から構成されている。この種の用例は比較的少ない。

2-2 主語の構成

章段タイトルの主語はほとんどの場合は人名などの名詞や名詞連語で構成されている。次の用例を見てみよう。

31. 王司徒巧使连环计 董大师大闹凤仪亭 (《国》第八回)
32. 贾袭人娇嗔箴宝玉 俏平儿软语救贾琏 (《红》第二十回)
33. 宁国府除夕祭宗祠 荣国府元宵开夜宴 (《红》第五十三回)
34. 薛冶儿舞剑分欢 众夫人题诗邀宠 (《隋》第三十一回)
35. 李世民感恩劫友母 宁夫人感计走他乡 (《隋》第五十二回)
36. 冯妈妈说嫁韩爱姐 西门庆包占王六儿 (《金》第三十七回)
37. 琴童潜听燕莺欢 玳安嬉游蝴蝶巷 (《金》第五十回)

38. 李逵打死殷天錫 柴進失陷高唐州 (《水》第五十二回)
 39. 楊雄醉罵潘巧云 石秀智殺裴如海 (《水》第四十五回)
 40. 王庆因奸吃官司 龔端被打師軍犯 (《水》第一百二回)

棒線で示しているように、主語は人名などの名詞で構成されている。しかし、次のような用例もある。

41. 鳩昏主竟同儿戏 斬逆后大快人心 (《隋》第七十七回)
 42. 官封弼馬心何足 名注齐天意未宁 (《西》第四回)

棒線部の主語は述語連語で構成されている。

2-3 主語の位置

章段タイトルの主語は句の最初に置く場合が多いが、句のまんなかにも置く場合も少なくない。

A、主語は句の最初に置く

句の最初に主語を置き、そのあとに主語の動作、行為、状態などについて陳述する述語を置く。章回小説にはこのような章段タイトルが非常に多い。

43. 王熙凤历幻返金陵 甄应嘉蒙恩还玉厥 (《紅》第一百十四回)
 44. 林黛玉焚稿断痴情 薛宝钗出阁成大礼 (《紅》第九十七回)
 45. 俏潘娘帘下勾情 老王婆茶坊说技 (《金》第二回)
 46. 蕙蓮儿偷期蒙爱 春梅姐正色闲邪 (《金》第二十二回)
 47. 安禄山人官见妃子 高力士沿街觅状元 (《隋》第八十回)
 48. 王碗儿观灯起衅 宇文子贪色亡身 (《隋》第十八回)
 49. 宋江兵打北京城 关胜议取梁山泊 (《水》第六十三回)
 50. 林冲水寨大並火 晁盖梁山小夺泊 (《水》第十九回)
 51. 曹阿瞞许田打围 董国舅内閣受诏 (《国》第二十回)
 52. 陶恭祖三让徐州 曹孟德大战吕布 (《国》第十二回)
 53. 丁奉定计斩孙琳 姜维斗阵破邓艾 (《国》第一百十三回)

棒線で示しているように、主語は句の最初に置いてある。

B、主語は句の真ん中に置く

句の最初に場所や時間の言葉或いは述語や目的語を置き、その後に主語を置く。このような章段タイトルが少なくない。

(1)、主語の前に場所や時間の言葉を置く(場所・時間 + S + V)。次の用例を見てみよう。

54. 东岳庙英雄染病 二贤庄知己谈心 (《隋》第十回)
 55. 清明节寡妇上新坟 永福寺夫人逢故主 (《金》第八十九回)
 56. 滴翠亭杨妃戏彩蝶 埋香塚飞燕泣残红 (《红》第二十七回)
 57. 下邳城曹操鏖兵 白门楼吕布殒命 (《国》第十九回)
 58. 七星坛诸葛祭风 三江口周瑜纵火 (《国》第四十九回)
 59. 梁山泊林冲落草 汴京城杨志卖刀 (《水》第十二回)
 60. 梁山泊吴用举戴宗 揭阳岭宋江逢李俊 (《水》第三十六回)
 61. 观音院唐僧脱难 高老庄行者降魔 (《西》第十八回)
 62. 黄风岭唐僧有难 半山八戒争先 (《西》第二十回)

棒線で示しているように、主語の前に場所や時間の言葉を置いてある。

(2)、主語の前に述語や目的語を置き、その後主語を置く (V (O) + S)。次の用例を見てみよう。

63. 改书柬窦公辞姻 割袍禁单雄信断义 (《隋》第五十七回)
 64. 改国号女主称尊 闯宴筵小人怀肉 (《隋》第七十四回)
 65. 盼情郎佳人占鬼卦 烧夫灵和尚听淫声 (《金》第八回)
 66. 胥相府西门脱祸 见娇娘敬济销魂 (《金》第十八回)
 67. 失锦衣贫女耐嗷嘈 送菓品小郎惊叵测 (《红》第九十回)
 68. 试文字宝玉始提亲 探莺风贾环重结怨 (《红》第八十四回)
 69. 废汉帝陈留践位 谋董贼孟德献刀 (《国》第四回)
 70. 焚金殿董卓行凶 匿玉玺孙坚背约 (《国》第六回)

—、----- 線で示しているように、主語の前に述語と目的語を置いてある。

2-4 主語の省略

章回小説の章段タイトルの主語は全体としては省略する場合が少ない。しかし、作品によってはよく省略する場合もある。次の用例を見てみよう。

71. 给孤园 () 问古谈因 天竺国 () 朝王遇偶 (《西》第九十三回)
 72. () 幻作戏屏上蝉娟 () 小游仙空中音乐 (《隋》第八十四回)
 73. 长生殿 () 半夜私盟 勤政楼 () 通宵欢宴 (《隋》第八十六回)
 74. 睢阳界 () 触忌被斥 齐州城 () 卜居迎养 (《隋》第三十三回)
 75. 渡泸水 () 再缚番王 识诈降 () 三接孟获 (《国》第八十八回)
 76. 驱巨兽 () 六破蛮兵 烧藤甲 () 七擒孟获 (《国》第九十回)
 77. 诉肺腑 () 心迷活宝玉 含耻辱 () 情烈死金钏 (《红》第三十二回)

78. 闲取乐 () 偶攒金庆寿 不了情 () 智撮土为香 (《红》第四十三回)
 79. 撕扇子 () 作千金一笑 因麒麟 () 伏白首双星 (《红》第三十一回)
 棒線で示しているように、() の所では主語が省略されている。

Ⅲ 述語

中国語では主語は省略したりすることができるが、述語は一般的に省略できない。章回小説の章段タイトルにおいても同じである。述語はもつとも肝心な部分で、省略は不可能である。また章段タイトルの述語は一回だけ現れる場合もあれば、数回現れる場合もある。

3-1 述語が一回だけ現れる

述語が一回だけ現れる場合には、主語のある時は述語は主語の後、目的語の前に置く。主語が省略されている時には場所や時間を表わす言葉の後に置く。

A、主語がある場合

(1) 述語には連用修飾語が付いていない場合には述語は主語のすぐ後に置く。次の用例を見てみよう。(S + V)

1. 义士充配孟州道 妻妾玩赏芙蓉亭 (《金》第十回)
2. 字给事劾倒杨提督 李瓶儿许嫁蒋竹山 (《金》第十七回)
3. 潘金莲惊散幽欢 吴月娘拜求子息 (《金》第五十三回)
4. 吕奉先射戟辕门 曹孟德败师涓水 (《国》第十六回)
5. 玄德进位汉中王 云长攻拔襄阳君 (《国》第七十三回)
6. 茉莉粉替去蔷薇硝 玫瑰露引出茯苓霜 (《红》第六十回)
7. 甄家仆投靠贾家门 水月庵掀翻风月案 (《红》第九十三回)

— 線で示しているように、述語は主語のすぐ後に置いてある。

(2)、主語の後に連用修飾語がある場合には述語は連用修飾語の後に置く。(S + 連用修 + V)

8. 隋炀帝_二两院观花 众夫人_二同舟游海 (《隋》第二十九回)
9. 李瓶儿_二墙头密约 迎春儿_二隙底私窥 (《金》第十三回)
10. 王六儿_二棒捶打搗鬼 潘金莲_二雪夜弄琵琶 (《金》第三十八回)
11. 刘皇叔_二北海救孔融 吕温侯_二濮阳破曹操 (《国》第十一回)
12. 吴国太_二佛寺看新郎 刘皇叔_二洞房续佳偶 (《国》第五十四回)

13. 诸葛亮智算华容 关云长义释曹操 (《国》第五十回)
 14. 公孙胜芒碭山降魔 晁天王曾头市中箭 (《水》第六十回)
 15. 卢俊义大战昱岭关 宋公明智取清溪洞 (《水》第一百十八回)
 16. 混江龙太湖小结义 宋公明苏州大会垓 (《水》第一百十三回)

— 線で示しているように、述語は主語や連用修飾語の後に置いてある。

B、主語がない場合

主語がない場合には述語は場所や時間の言葉の後に置く。このような場合の用例は少ない(連用修 + V (O))。

17. 芦雪庭争联即景诗 暖香坞雅制春灯谜 (《红》第五十回)
 18. 长生殿半夜私盟 勤政楼通宵欢宴 (《隋》第八十六回)

— 線で示しているように、述語は時間や場所の言葉の後に置いてある。

3-2 述語が数回現れる

一句に述語が二回以上現れる時には主語がある場合とない場合の2パターンがある。

A、主語がある場合

(1)、最初に主語があり、その後に述語が二回現れる (S + V (O) + V (O))。

この種の用例が非常に多い。

19. 安金藏剖腹鸣冤 骆宾王草檄讨罪 (《隋》第七十三回)
 20. 李谿仙应诏答番书 高力士进谗议雅调 (《隋》第八十二回)
 21. 陈光蕊赴任逢灾 江流僧复仇报本 (《西》第九回)
 22. 观音赴会问原因 小圣施威降大圣 (《西》第六回)
 23. 我佛造经传极乐 观音奉旨上长安 (《西》第八回)
 24. 醉金刚轻财尚义侠 痴儿女遗帕惹相思 (《红》第二十四回)
 25. 俏丫环报屈天风流 美优伶斩情归水月 (《红》第七十七回)
 26. 曹操煮酒论英雄 关公赚城斩车胄 (《国》第二十一回)
 27. 曹丕乘乱纳甄氏 郭嘉遗计定辽东 (《国》第三十三回)
 28. 庞令明抬榱决死战 关云长放水淹七军 (《国》第七十四回)

— 線で示しているように、述語が二回現れている。

(2)、最初に述語(目的語)があり、その後に主語が来る。主語の後にまた述語と目的語がある。(V (O) + S + V (O))。この種の用例が多い。

29. 见土仪饗卿思故里 闻秘事凤姐讯家童 (《红》第六十七回)
 30. 受私贿老官翻案牍 寄闲情淑女解琴书 (《红》第八十六回)

31. 瞞消息凤姐设奇谋 泄机关颯儿迷本性 (《红》第九十六回)
 32. 寄法名官哥穿道服 散生日敬济拜冤家 (《金》第三十九回)
 33. 打猫儿金莲品玉 斗叶子敬济输金 (《金》第五十一回)
 34. 议温明董卓叱丁原 馈金珠李肃说吕布 (《国》第三回)
 35. 祭泸水汉相班师 伐中原武侯上表 (《国》第九十一回)
 36. 杀瞿让李密负友 乱宫妃唐公起兵 (《隋》第四十六回)
 37. 施青目学士识英雄 信赤心番人作藩镇

— 線で示しているように、述語は主語の前後に現れている。

B、主語がない場合

この場合には述語は二回現れる場合もあれば、三回現れる場合もある。(V (O) +

V (O))。次の用例を見てみよう。

38. 幻作戏屏上蝉娟 小游仙空中音乐 (《隋》第八十四回)
 39. 迁西内离间父子情 遗鸿都结证隋唐事 (《隋》第一〇〇回)
 40. 渡泸水再缚番王 识诈降三擒孟获 (《国》第八十八回)
 41. 驱巨兽六破蛮兵 烧藤甲七擒孟获 (《国》第九十回)
 42. 绣鸳鸯梦兆绛芸轩 识分定情悟梨香院 (《红》第三十六回)
 43. 得灵通幻境悟仙缘 送慈柩故乡全孝道 (《红》第一百十六回)
 44. 逞豪华门前放烟火 赏元宵楼上醉花灯 (《金》第四十二回)
 45. 弄私情戏赠一枝桃 走捷径探归七件事 (《金》第四十八回)

— 線で示しているように、主語がないが述語が二回現れている。次の用例は述語が三回現れている。

46. 闲取乐偶攒金庆寿 不了情暂撮土为香 (《红》第四十三回)
 47. 感秋声抚琴悲往事 坐禅寂走火入邪魔 (《红》第八十七回)
 48. 恣蒸淫赐盒结同心 逞弑逆扶王升御座 (《隋》第十九回)
 49. 寻洞除妖逢老寿 当朝正主教婴儿 (《西》第七十九回)

— 線で示しているように述語は三回現れている。

2-3 複雑な述語

ここで言う複雑な述語は主述述語、兼語述語、四字連語述語などのパターンを指している。

A、主述述語

述語は主・述構造の連語からなっている (S + V (主・述構造))。次の用例を見

てみよう。

50. 李瓶儿病缠死孽 西门庆官作生涯 (《金》第六十回)
 51. 官封弼马心何足 名注齐天意未宁 (《西》第四回)
 52. 拯救骆驼禅性稳 脱离污秽道心清 (《西》第六十七回)
 53. 真命主南牢身陷 奇女子巧计龙飞 (《隋》第五十一回)
 54. 宋公明忠感后土 乔道清术败宋兵 (《水》第九十五回)
 55. 魏主政归司马氏 姜维兵败牛头山 (《国》第一百七回)
 56. 占对山黄忠逸待劳 据汉水赵云寡胜众 (《国》第七十一回)
 57. 享福人福深还祷福 多情女情重愈斟情 (《红》第二十九回)
 58. 醉金刚小鳅生大浪 痴公子余痛触前情 (《红》第一百四回)

——線で示しているように、述語は主・述構造で構成している。

B、四字連語述語

述語は意味がまとまった四字連語で構成している。(S + V (四字連語))。

59. 众娇娃全名全美 各公卿宜室宜家 (《隋》第六十二回)
 60. 鸠昏主竟同儿戏 斩逆后大快人心 (《隋》第七十七回)
 61. 雪衣娘诵经得度 赤心儿欺主作威 (《隋》第八十七回)
 62. 陈敬济弄一得二 潘金莲热心冷面 (《西》第八十二回)
 63. 袁本初败兵折将 关云长挂印封金 (《国》第二十六回)
 64. 村老老是信口开河 情哥哥偏寻根究底 (《红》第三十九回)

——線で示しているように、述語は四字連語で構成している。

C、兼語述語

述語は兼語構造の連語から構成されている。この種の用例はきわめて少ない。(S + V (兼語構造))。

65. 吴用使时迁盗甲 汤隆赚徐宁上山 (《水》第五十六回)

——線で示しているように、述語は兼語構造となっている。

IV その他

上述は主として章回小説の章段タイトルの主語、述語の問題について簡単に考察してきたが、この節では章段タイトルの目的語、連用修飾語及び七言八言句以外の章段タイトルなどについて、すこし触れて行きたいと思う。

A、目的語

章回小説の章段タイトルの目的語は、地名などのような場所を表わす言葉から構成される用例が比較的が多い。これは目的語の特徴の一つとして挙げられよう。次の用例を見てみよう。

1. 赵王雄踞龙虎关 周喜霸占鸳鸯镇 (《隋》第六十五回)
2. 齐国远漫兴立球场 柴郡马挟伴游灯市 (《隋》第十七回)
3. 窦小姐易服走他乡 许太监空身入虎穴 (《隋》第二十六回)
4. 王教头私走延安府 九纹龙大闹史家村 (《水》第二回)
5. 史太郎夜走华阴县 鲁提辖拳打镇关西 (《水》第三回)
6. 赵员外重修文殊院 鲁智深大闹桃花村 (《水》第四回)
7. 花和尚单打二龙山 青面兽双夺宝珠寺 (《水》第十七回)
8. 赵主文饿死沙邱官 孟尝君偷过函谷关 (《东》第九十三回)
9. 冯云山夜走贵县 洪秀全起义金田 (《洪秀全演义》₁₃第八回)
10. 陈英王平定江西地 刘丽川计取上海城 (《洪》第三十七回)
11. 何信义议献江苏城 石达开大战衡州府 (《洪》第五十一回)

~~~~線で示しているように、目的語は場所を表す地名などの言葉で構成されている。

#### B、連用修飾語

章回小説の章段タイトルの連用修飾語は一般的には語いや単純な連語などで構成し、動作、行為などの場所、時間、方式、方法などを示す。次の用例を見てみよう。

12. 假弟妹暗续鸾胶 真夫妇明谐花烛 (《金》第九十七回)
13. 孟玉楼爱嫁李衙内 李衙内怒打玉簪儿 (《金》第九十一回)
14. 西门庆热结十兄弟 武二郎冷遇亲哥 (《金》第一回)
15. 心主夜间修药物 君王筵上论妖邪 (《西》第六十九回)
16. 镇海寺心猿知怪 黑松林三众寻师 (《西》第八十一回)
17. 曹仁大战东吴兵 孔明一气周公瑾 (《国》第五十一回)
18. 关云长单刀赴会 伏皇后为国捐生 (《国》第六十六回)
19. 美髯公千里走单骑 汉寿侯五关斩六将 (《国》第二十七回)
20. 曹操仓亭破本初 玄德荆州依刘表 (《国》第三十一回)
21. 张管营因妾弟丧身 范节级为表兄医脸 (《水》第一百三回)
22. 秦叔宝途次救唐公 窦夫人寺中生世子 (《隋》第五回)

[ ]で示しているように、連用修飾語は語いや連語で構成され、動作、行為の場所、時間、方式などを表わしている。しかし連用修飾語は時には一つの分句のよう

な形となっているように思われる。次の用例を見てみよう。

23. 涤垢洗心惟扫塔 缚魔归正乃修身 (《西》第六十二回)  
 24. 灵根孕育源流出 心性修持大道生 (《西》第一回)  
 25. 人亡物在公子填词 蛇影弓杯颯脚绝粒 (《红》第九十五回)  
 26. 愿同穴一时丧礼盛 守孤灵半夜口脂香 (《金》第六十五回)  
 27. 因讹成实元妃薨逝 以假乱真宝玉疯癫 (《红》第九十五回)

[ ] で示している部分は分句のように思われる。

### C、「対偶」について

章回小説の章段タイトルはほとんどの場合は前後の二句は字数も構造もまったく一緒である。例えば、

28. 会深山群英结大义 游督幕智士释豪商 (《洪》第二回)  
 29. 左宗棠应聘人抚衙 洪天王改元续汉统 (《洪》第十八回)  
 30. 林凤翔大破讷丞相 李开芳再夺卫辉城 (《洪》第三十四回)  
 31. 赛新园巫师释道 灵通关商客持经 (《度》第十回)  
 32. 神元捐金救鸡豕 道士设法试尼僧 (《度》第二十五回)  
 33. 高邮州夫妇再争雄 广陵城兄弟初交战 (《女仙外史》14 第六十回)  
 34. 方学士片言折七令 钱先生一札服诸官 (《仙》第七十一回)  
 35. 范飞娘独战连珠蕊 刘次云双斗苗龙虎 (《仙》第五十一回)  
 36. 赤风大王济贫汉 青锋宝剑化枯枝 (《度》第六十八回)  
 37. 陶情卖酒醉行商 王阳变妇迷孤客 (《度》第五十一回)

下線で示しているように、前後二句の字数も構造もまったく同じである。

しかし、たまには前句と後句の構造が違ったりする場合がある。

38. 敬济元夜戏娇姿 惠祥怒晋来旺妇 (《金》第二十四回)  
 39. 来旺儿递解徐州 宋惠莲含羞自缢 (《金》第二十六回)  
 40. 元夜游行遇云雨 妻妾戏笑卜龟儿 (《金》第四十六回)  
 41. 心猿正处诸缘伏 劈破傍门见月明 (《西》第三十六回)  
 42. 鬼王夜谒唐三藏 悟空神化引婴儿 (《西》第三十回)  
 43. 刘唐放火烧战船 宋江两败高太尉 (《水》第七十九回)  
 44. 梁山泊十里埋伏 宋公明两赢童贯 (《水》第七十七回)  
 45. 八戒大战流沙河 木叉奉法收悟净 (《西》第二十二回)

下線で示しているように、前句と後句の構造は違っている。例えば、例40では前句は[連用修+述・述+目]の構造となっているが、後句では[主+述+目]となつ

ている。

#### D、七言八言句以外の場合

章回小説の章段タイトルは七言八言句のものが主流である。しかし、そのほかにもいろいろな種類のものがある。例えば二言句のものもあれば、十三言句のものもある。次に簡単に紹介しておく。

##### (1)、二言句のもの

二言句の場合には一章段では二句ではなく、一句だけで表わしている。例えば、「双珠球」<sup>15)</sup>では次のようにタイトルをつけてある。

|     |    |     |    |
|-----|----|-----|----|
| 第一回 | 辞婚 | 第二回 | 截忠 |
| 第三回 | 报信 | 第四回 | 遇友 |
| 第五回 | 传技 | 第六回 | 比武 |

「文武香球」<sup>16)</sup>では次のようにタイトルをつけてある。

|       |    |       |    |
|-------|----|-------|----|
| 第二十一回 | 济贫 | 第二十二回 | 议嫁 |
| 第二十三回 | 继女 | 第二十四回 | 代婚 |
| 第二十五回 | 露情 | 第二十六回 | 游园 |

##### (2)、三言句のもの

三言句のものはそう多く見られていないが、例えば「中華全史演義」<sup>17)</sup>では一章段のタイトルは三言句四言句を併用している。

|       |     |     |      |
|-------|-----|-----|------|
| 第一回   | 谈天地 | 稽人物 | 盘古首出 |
| 第十回   | 李老子 | 释迦氏 | 说法谈经 |
| 第三十回  | 晋灭唐 | 汉继晋 | 郭氏周承 |
| 第四十八回 | 稽历数 | 及年号 | 演义告成 |

##### (3)、四言句のもの

四言句の場合には一章段のタイトルは一句の場合もあれば、二句の場合もある。例えば「千秋痕」<sup>18)</sup>では次のように一章段は一句で表わしている。

|     |      |     |      |
|-----|------|-----|------|
| 第一章 | 秀质天生 | 第二章 | 同学言情 |
| 第三章 | 海山盟誓 | 第四章 | 提议婚事 |
| 第五章 | 慈母省亲 | 第六章 | 恭祝遐令 |

「艶福」<sup>19)</sup>では一章段は二句で表わしている。

|     |      |      |
|-----|------|------|
| 第一章 | 名门公子 | 结识女佣 |
| 第二章 | 父七未终 | 大嫖妓院 |
| 第三章 | 娶妾开端 | 断送老母 |

## 第四章 海上繁华 金迷纸醉

## (4)、五言句のもの

五言句の場合は全篇五言句で構成するものもあれば、七言八言句の中に交じったりする場合もある。例えば「三刻拍案惊奇」<sup>20)</sup>では全部五言句で構成されている。

第一回 看得伦理真 写出奸徒门

第十回 淫妇情可诛 侠士心当宥

第二十回 良缘狐作合 伉俪草能偕

第三十回 窃篆心虽巧 完璧计尤神

「西遊記」では五言句が混じっている。例えば、

第三十回 邪魔侵正法 意马忆心猿

第四十一回 心猿遭火攻 木母被魔擒

第五十六回 神狂诛草寇 道昧放心猿

第六十六回 诸神遭毒手 弥勒缚妖魔

## (5)、六言句のもの

六言句の場合は七言八言句のものの中に混じったりする場合が多い。例えば「金瓶梅」では次のような六言句が混じっている。

第六回 何九受贿瞒天 王婆帮闲遇雨

第四十七回 苗青含财害主 西门枉法受赃

「隋唐演義」では次のような六言句が混じっている。

第一回 隋主起兵伐陈 晋王树功夺嫡

第三十二回 狄去邪入深宫 皇甫君击大鼠

「水滸伝」では次のような六言句が混じっている。

第七十三回 黑旋风乔捉鬼 梁山泊双献头

第九十三回 李逵梦闹天地 宋江兵分两路

第九十四回 关胜义降三将 李逵莽陷众人

第九十八回 张清缘配琼英 吴用计鸩鵒梨

第一百九回 王庆渡江被捉 宋江剿寇成功

「東周列国志」では次のような六言句がある。

第二十八回 里克两弑孤主 穆公一平晋乱

第八十回 夫差违谏释越 勾践竭力事吴

第八十六回 吴起杀妻求将 驹忌鼓琴取相

第八十八回 孙臧佯狂脱祸 庞涓兵败桂陵

## (6) 九言句のもの

全篇九言句で構成しているものは幾つもある。例えば、「剣胆琴心」<sup>21)</sup>の章段タイトルはすべて九言句で構成されている。

- 第一回 卖酒秋江壁诗惊过客  
舍舟中道袱被访高贤
- 第十回 匕首横飞此君来不速  
刺痕乍裹孝子感尤深
- 第三十六回 粉墙留题飞仙讶月老  
倭刀赠别酌酒走昆仑

「宝剣金釵」<sup>22)</sup>のタイトルも全部九言句で構成されている。

- 第一回 银髯铁臂老鏖头隐居  
美景芳春小侠女救父
- 第十回 妓以侠名花灯窥俏影  
情真难遣浊酒灌愁心
- 第三十四回 小院死奸徒销仇尽义  
铁窗来奇侠匿剑惊魂

## (7)、十言句のもの

十言句のものとしては次のようなものがある。

- 五花阵柴嗣昌山寺定姻 一蹇囊秦叔宝穷途落魄  
(《隋唐演义》第六回)
- 释前仇程咬金见母受恩 践死誓王伯当为友捐躯  
(《隋唐演义》第五十四回)

## (8)、十一言句のもの

十一言句のものとしては次のようなものがある。

- 舟中歌词句敌国暂许君臣 马上缔姻缘吴越反成秦晋  
(《隋唐演义》第四十九回)
- 苦忆心盟宝马如龙寻旧侣 突飞神掌佛光满地遁元凶  
(《长眉真人》<sup>23)</sup>第二回)
- 巧得干莫古篆神碑先示偈 言寻朋好青山碧水远闻歌  
(《长》第六回)
- 力挽狂澜巧遇异人飞幻影 心忧前路独寻古庙访真情  
(《长》第十六回)

## (9)、十二言句のもの

十二言句のものとしては次のようなものがある。

- 第一回 地胜武陵源红树青山容小隐  
人飞方竹涧蛮烟瘴雨救灵婴
- 第二回 灵乳话空青金剑双飞逢侠士  
冻云迷远翠铁箫一曲退蛮姑
- 第二集一回 骑鹤送郎归生死缠绵怜姹女  
穿林同友去关山迢递访仙灵

(《柳湖侠隐》<sup>24)</sup>)

## (10)、十三言句のもの

十三言句のものとしては次のようなものがある。

- 第一回 举酒酌流光良夜难逢清游如绘  
对桴泊野渡神鞭御寇群丑伏诛
- 第三回 银汉使孤舟人在镜中船真天上  
暗云藏大厉惊逢血影喜遇真仙
- 第十三回 一径入魔宫镜殿春生忽惊奇艳  
双修多乐事蓬莱路远重话危机

(《长眉真人》)

## V 終りに

以上、中国の章回小説タイトルの構造について、七言八言句を中心に簡単に考察してきた。上述の考察を通じておおよそ次のようなことがまとめられよう。

- ① 章回小説の章段タイトルは七言八言句のものが主流である。
- ② 章回小説章段タイトルの主語はあまり省略しない。
- ③ 章回小説章段タイトルの主語は二文字、三文字のことが多い。
- ④ 章回小説章段タイトルの主語の構成はほとんどの場合は人名などのような名詞で構成する。
- ⑤ 章段タイトルの主語は一般的には句の最初に置くが、句の真中に置く場合も少なくない。
- ⑥ 章回小説章段タイトルの述語は省略しない。

- ⑦ 章段タイトルの述語は一回だけ現れる場合もあれば、数回現れる場合もある。
- ⑧ 述語が一回だけ現れる場合には述語は主語や連用修飾語の後に置く。
- ⑨ 述語が数回現れる場合には述語は主語の後に置く場合もあれば、主語の前後に置く場合もある。
- ⑩ 章段タイトルの述語は一般的には動詞、四字連語、主述構造連語などで構成する。
- ⑪ 章回小説章段タイトルの目的語は場所や地名などのような言葉で構成する用例がよく見られる。
- ⑫ 章回小説章段タイトルの二句はほとんどの場合は字数も構造もまったく同じであるが、時には前句と後句の構造が違ったりする場合もある。
- ⑬ 章回小説の章段タイトルは七言八言句が主流であるが、二言句のものもあれば、十三言句のものもある。

#### 注

1) 章回小説は宋・元時代の語り「講史」から発生したものである。宋・元時代の長編講史の話本「平話」は既に章段にわけており、章回小説のひな形であるとよく指摘されている。例えば、「日本文芸史」(小西甚一、講談社、P324)では章回小説は宋・元時代の説話、講史、譚経、合生、話本などから発生したと指摘している。

2) 「三国演義」、羅貫中著、沈伯俊校、江蘇古籍出版社、1992年。以下「国」と略称する。

3) 「水滸全伝」、施耐庵、羅貫中著、李泉、張永鑫校、四川文芸出版社、1986年。以下「水」と略称。

4) 「西遊記」黄周星定本西遊証道書、黄永年、黄寿成校、中華書局出版、1986年。以下「西」と略称。

5) 「紅樓夢」曹雪芹著、作家出版社、1955年。以下「紅」と略称。

6) 「金瓶梅」、「金瓶梅」資料彙編、侯忠義、王汝梅編、北京大学出版社、1985年。以下「金」と略称。

7) 「民国章回小説大観」秦和鳴主編、中国文联出版社、1997年。以下「大観」と略称。

8) 主語については説によつては見方が大きく違う。例えば、文の最初にあるものはすべて主語として見る説もある。朱徳熙の「語法講話」(商務印書館、1982年、P96)では「我們昨天开了一个会」の場合の主語は「我們」と見ると見る。しかし「昨天我們开了一个会」の場合は「昨天」を主語として見る。要するに主語はすべて位置によつて決めるのである。従つて主語には「施事主語」、「受事主語」、「工具主語」、「与事主語」があると指摘している。本稿では意味による主語の決め方を取る。

9) 本稿では、—— は主語。—— は述語、~~~~は目的語、[ ] は連用修飾語を表わす。

10) 「隋唐演義」、山西古籍出版社、1996年。以下「隋」と略称。

- 11) 「東周列国志」、山西古籍出版社、1996年。以下「東」と略称。
- 12) 「東度記」清溪道人著、唐華校、上海古籍出版社、1996年。以下「度」と略称。
- 13) 「洪秀全演義」黄小配著、長江文芸出版社、1981年。以下「洪」と略称。
- 14) 「女仙外史」呂熊著、劉遠ほか校、上海古籍出版社、1991年。以下「女」と略称。
- 15) 「双珠球」楊警頑著、1934年。上海大通図書社、「大観」P493。以下「双」と略称。
- 16) 「文武香球」二禾軒主人、1936年。上海新文化書社、「大観」P523。以下「文」と略称。
- 17) 「中華全史演義」蔡東藩、1926年。上海大東書局、「大観」P305～307。
- 18) 「千秋痕」花萼、1928年。民立図書館、「大観」P682。
- 19) 「艶福」沈瘦葉、1920年。「大観」P567。
- 20) 「三刻拍案惊奇」張栄起整理、北京大学出版社1987年。
- 21) 「劍胆琴心」張恨水、新農報、1920年。「大観」P185～186。
- 22) 「宝剣金釵」王度盧、1987年。吉林文史出版社、「大観」P235～236。
- 23) 「長眉真人」還珠楼主、上海正気書局、1946年。「大観」P167。
- 24) 「柳湖俠隱」還珠楼主、上海正気書局、1946年。「大観」171。